里山林整備について

里山林はかつては薪炭林・落ち葉採取などの地域住民の利用を通じて維持・管理されてきましたが、近年、利用・活用がなされなくなり、放置された里山林が増加しています。

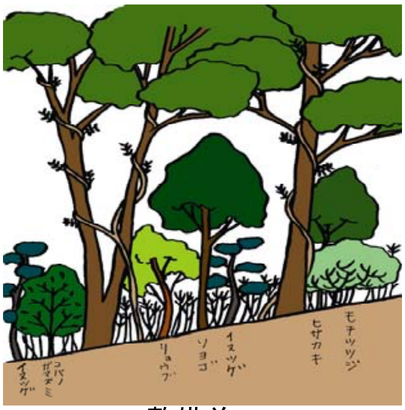
一方で、身近な里山林が環境林「自然とふれあう場として、緑が心にうるおいをもたらす場として、さらに生物の多様性を守る空間」として評価が高まってきています。

奈良県では、このような里山林に対する意識の高まりにこたえるために、NPOやボランティア団体の協力を得ることにより、里山林の景観や機能を回復するための整備を進めていきます。

主な整備手法

コナラ等の落葉広葉樹

区分	高木	亜高木	低木	草本等
保存種	ｺﾅﾗ、ｸﾇｷﾞ、ｱﾍﾞﾏｷ、ｶｽﾐｻﾞｸﾗ、ﾔﾏｻﾞｸﾗ等	ﾘｮｳﾌﾞ、ｺｼｱﾌﾞﾗ、ﾀｶﾉﾂﾒ、ﾏﾙﾊﾞｱｵﾀﾞﾓ等（落葉広葉樹）	ｺﾊﾞﾉﾐﾂﾊﾞﾂﾂｼﾞ、ﾓﾁﾂﾂｼﾞ、ﾑﾗｻｷｼｷﾌﾞ、ｺﾊﾞﾉｶﾞﾏｽﾞﾐ等（落葉広葉樹）	
伐採種		ｿﾖｺﾞ、ｱﾗｶｼ、ﾈｽﾞﾐﾓﾁ、ｸﾛﾊﾞｲ等（常緑広葉樹）	ﾋｻｶｷ、ｲﾇﾂｹﾞ等（常緑広葉樹）	ﾈｻﾞｻ、ｺｼﾀﾞ、ﾌｼﾞ等



整備前

整備後

竹林

竹林の現況	整備の目標
放置され密生した竹林	概ね30～50本/100m2を目安とする
隣接した林に侵入し繁茂した竹林	竹、枯れ竹等は全て除去

整備前

整備後